

# 陶磁器の形状と機能に関する意匠研究 製品開発試作事例「半磁器本舗」

北川 幸治\* , 榊谷 幹雄\*\* , 水野 加奈子\*\*

Study on Pottery Design Considering its  
Form and Property  
- “Hanjiki-Honpo”: Development of Sample  
Products for Semi-Pottery -

by Kouji KITAGAWA, Mikio SAKAKIYA  
and Kanako MIZUNO

## [ 要旨 ]

四日市萬古焼において年々生産量が減少している半磁器製品を新たな視点から見直し、現代の生活様式とその感覚に調和したデザインを追求した。そして「素材」「白」「価値観」をデザイン開発コンセプトに試作品を制作した後、参考小売価格から展示什器までも設定し、実際の販売場面を想定したトータルな展開の「半磁器本舗」という小売店を展示会においてシュミレーションして、好評を得た。

## 1. はじめに

四日市萬古焼では大正時代から『半磁器』と呼ばれる白い素地の陶器が生産されてきた。特に輸出用に関してその比率は高く、萬古焼生産額全体の6割近くを占める時代もあったようである。しかし近年、半磁器はどちらかといえば「安いもの」というイメージが強くなり、素材感は「中途半端」ととられることも多くなった。しかし鑄込み成形・動力成形どちらの場合においても成形性はきわめて優れ、また「磁器よりも大物成形に向く」「顔料や色釉の発色が良い」等、多くの優れた特性を持つ素材であり、四日市萬古焼の最も得意としたところであった。

そこで、このところの輸出不振、国内での土ものブームが続く中であえて「この時代だから半磁器」を開発コンセプトに「半磁器ルネッサンスの創出」を目指した「半磁器本舗」というテーマの作品を試作するこ

ととした。

## 2. 試作

### 2.1 対象製品

新たなデザインにより試作開発を目指した対象製品は、半磁器製品の主流を占める、食器及び花器等とした。

### 2.2 製品ベーシックコンセプト

企画にあたっての製品ベーシックコンセプトを以下の通りとした。

- ・「素材」を生かしていこう
- ・「白」を遊ぼう
- ・「価値観」を大事にしよう

「素材」は半磁器、「白」は自然な素材色、「価値観」とは、作り手側と消費者双方のモノに対する良心的な価値観を表す。

### 2.3 試作品個別データ&コンセプト

(1) No. 1 - A・B

\* 窯業センター伊賀分場

\*\* 窯業センター応用技術グループ

- ・アイテム種別：マスコット
- ・作品名：まいどおおきにうさぎ（大）・（小）
- ・設定参考価格：¥10.000-（大）・¥5.000-（小）
- ・コンセプト  
不景気になると、「福」を呼び「幸」を招くとされる「縁起モノ」が売れるといわれている。そのキャラクターとしては猫、ふくろう、たぬき、などがあるが、うさぎもその一つである。「福助人形」ふうにデザインした。

(2) No, 2 - A・B

- ・アイテム種別：花器
- ・作品名：くるりの一輪ざし（大）（小）
- ・設定参考価格：¥1.800-（大）・¥1.500-（小）
- ・コンセプト  
有機的かつキュートなフォルムを追求した。高台と平らな底面をなくし、くるくると回る楽しさをねらった。小さなスペースに背の低い花を飾ることができる。「見て」「触って」楽しむ一輪ざしである。

(3) No, 2 - C・D・E

- ・アイテム種別：花器
- ・作品名：なまこの3輪ざし・5輪ざし・7輪ざし
- ・設定参考価格：¥1.800-（3輪ざし）  
¥2.400-（5輪ざし）  
¥3.000-（7輪ざし）
- ・コンセプト  
小さな野の草花を気軽に生けることができるカジュアルな花器を追求した。3輪・5輪・7輪と横並びに自由にさして楽しめるデザインとした。

(4) No, 2 - F・G

- ・アイテム種別：花器
- ・作品名：だるまの花入れ・きぬたの花入れ
- ・設定参考価格：¥2.400-（だるまの花入れ）  
¥2.800-（きぬたの花入れ）
- ・コンセプト  
市場で中心となる3,000円までのギフト商品の一つとして花器が考えられる。渦巻状の線文様が天然土灰を加えた石灰釉の下に効果的に映えるようなデザインとした。だるまの形は窯入り（容積効率）が良く、また、砵（きぬた）は日本人の心のよりどころとなる和の形の一つである。

(5) No, 3 - A・B

- ・アイテム種別：皿
- ・作品名：猫の耳皿（大）（小）
- ・設定参考価格：¥1.800-（大）  
¥3.600-（小）
- ・コンセプト  
単品でもセットでも売れる収納性の良い皿をデザインした。北欧では同様の皿がすでに販売されているが、半磁器のシンプルな形と色は清潔感もあり、暖かさもあって「土もの」が多くなってきた食卓上の器の中では、むしろ個性的である。リム断面の形状から「猫の耳皿」と名付けた。

(6) No, 3 - E

- ・アイテム種別：皿
- ・作品名：フリスビーの皿
- ・設定参考価格：¥2.000-
- ・コンセプト  
皿には液体が入るものと、そうでないものがある。凹型の皿が普通の中でフラットなモノがあっても使い方次第ではオシャレな食器となる。渦巻パターンをセンターに配し、その上にモノをきちんと置いてみたくなるシカケを考えた。

(7) No, 4 - A・B

- ・アイテム種別：鉢
- ・作品名：なかぐるぐるの鉢・そとぐるぐるの鉢
- ・設定参考価格：各¥1.500-
- ・コンセプト  
デザインは2F・2G・3E等と同じく渦巻状のパターンにこだわってみた。渦巻すなわち水をイメージしたデザインであり、縄文土器のような生命感があって個性的。またそれでいてシンプルで現代的でもある。

(8) No, 4 - C・D

- ・アイテム種別：鉢
- ・作品名：ブチブチの角鉢（大）（小）
- ・設定参考価格：¥2.200（大）・¥1.200-（小）
- ・コンセプト  
土もの和食器の重たさを感じさせず、しかし磁器製品や従来の半磁器製品の軽さがないものを目指した。

長石の粗い粒をそのまま生かした釉を施釉し、石目調のテクスチャーを表現した。

(9) No. 5 - A

- ・アイテム種別：片口
- ・作品名：おとこの片口
- ・設定参考価格：¥2.200-
- ・コンセプト  
男性向けにどっしりとした印象でやや大きめに作った。釉薬を総掛けせずに、無釉部分を大きくし、新しいイメージにした。

(10) No. 5 - B

- ・アイテム種別：片口
- ・作品名：おんなの片口
- ・設定参考価格：¥1.800-
- ・コンセプト  
女性向けに華奢でかわいらしい雰囲気にして、片手でもつかみやすいように、やや小さめに作った。

(11) No. 6 - A・B

- ・アイテム種別：酒器
- ・作品名：ころりのぐいのみ（大）（小）
- ・設定参考価格：¥700-（大）・¥600-（小）
- ・コンセプト  
「おとこの片口」とコーディネートできるようにデザインした。コスト的にも片口とぐいのみ2個セットで3.000円台のギフトに対応できる値段設定とした。

(12) No. 6 - C

- ・アイテム種別：酒器
- ・作品名：ひらりのぐいのみ
- ・設定参考価格：¥700-
- ・コンセプト  
「おんなの片口」とコーディネートできるようにデザインした。コスト的にも片口とぐいのみ2個セットで3.000円台のギフトに対応できる値段設定とした。

(13) No. 7 - A・B

- ・アイテム種別：カップ
- ・作品名：よるよるカップ（大）（小）
- ・設定参考価格：¥1.200-（大）・¥1.000-（小）

・コンセプト

白さを生かした柔らかい雰囲気の足つきカップ。足の部分を一体成形（排泥鑄込み）できるようなデザインとした。

(14) No. 7 - C・D

- ・アイテム種別：カップ
- ・作品名：レレレのタンブラー（大）（小）
- ・設定参考価格：¥1.500-（大）・¥1.200-（小）
- ・コンセプト  
縁起の良い末広がり安定感のあるタンブラー。「レレレのおじさん」風の耳を取っ手とし、手が滑りにくい工夫とした。有機的なフォルムの中にも楽しさを感じさせるものを目指した。

(15) No. 8 - A～I（9種）

- ・アイテム種別：S P（Salt&Pepper）
- ・作品名：樹神（こだま）のS P
- ・設定参考価格：¥800-
- ・コンセプト  
ウネウネと地中から這い出したようなフォルムの中に、どこことなくかわいらしさを感じるような、そんな感覚を目指した。従来一般的なS Pは、底にプラスチック製の蓋を持っているが、あえてレトロなコルク製の蓋を上部に配した。

(16) No. 9 - A～J（10種）

- ・アイテム種別：箸置き
- ・作品名：箸置きたち
- ・設定参考価格：¥200～¥500-
- ・コンセプト  
流線的なラインを大切に箸置き。スプーン&フォークレストにもなるように、少し大きめに作った。

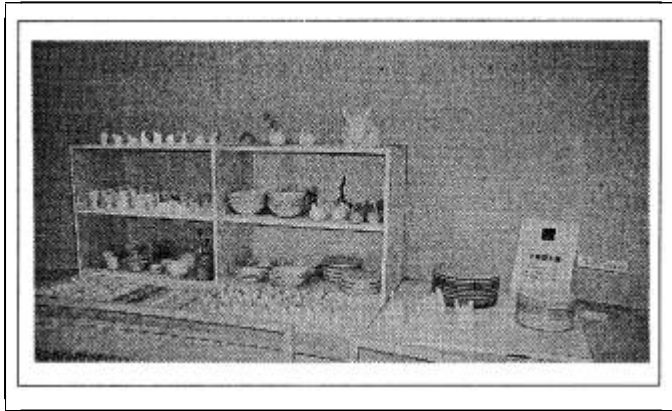


写真1.「半磁器本舗全景」

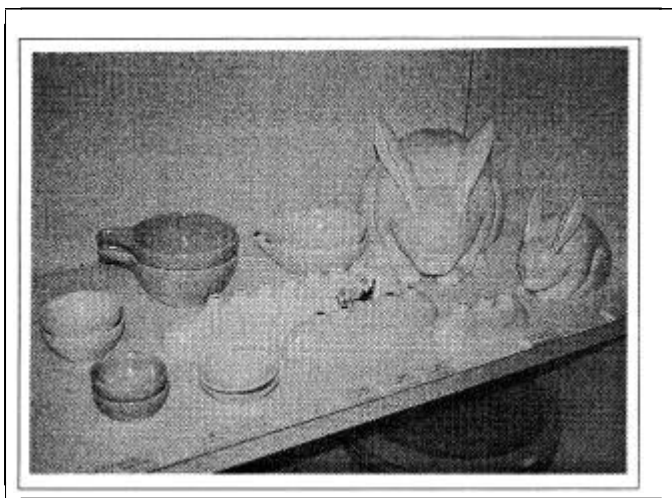


写真2.「マスコット，片口，花器等」

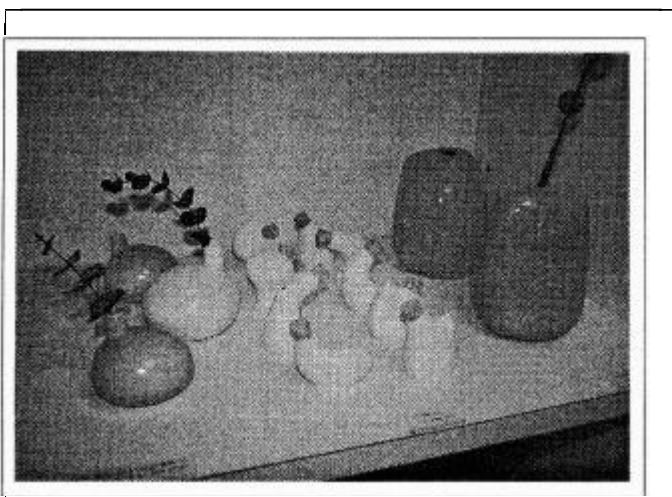


写真3.「花器，SP等」

### 3. 結果と考察

制作した試作品は試作に終わらせることなく、商品化と市場での好成績を最終的な目的とするため、市場における評価と有意性を計る必要がある。そこで、参考小売価格から展示什器までも設定し、実際の販売場面を想定したトータルな展開の「半磁器本舗」という小売店を展示会においてシュミレーションすることとした。

試作品は全国陶磁器試験研究機関作品展「陶&くらしのデザイン展98」に出品し、四日市をはじめとして、瀬戸、美濃、信楽、北海道等6カ所で展示され、各地のアンケートでは大変な好評を得た。また四日市展会場の「ばんこの里会館」では、企業向けの試作品説明会を開催し、商品化に関しての相談を受けた。

### 4. まとめ

デザイン開発においては常に世の流行に対して密接な情報を得ていく必要があるわけであるが、陶磁器に関しても同じく、刻々と移り変わる消費者の気持ちに入るべく、調査を続ける必要がある。「半磁器本舗」はそのような情報収集の中で“白い”と“素材”が今後の流行のキーワードになると予測し、その企画に入った。現実には市場ではナチュラルな白さを前面に出した商品が増えつつある。「半磁器本舗」のコンセプトが陶磁器業界の理解を得て、トータルな商品展開により、店頭に並ぶことが最終的な着地点であると考えている。